

白嶺高校の学級維持、いま一度、新潟県に強く要望していただきますよう心からお願いして、質問を終わります。

○議長（倉又 稔君）

以上で、古畑議員の質問が終わりました。

ここで暫時休憩をします。

再開を午後３時２０分といたします。

午後３時０７分 休憩

午後３時２０分 開議

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を開きます。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。〔６番 保坂 悟君登壇〕

○６番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき１回目の質問を行います。

１、０歳から１８歳の一貫教育を推進する系魚川市による市内県立高校の魅力づくり側面支援について。

(１) 系魚川高校の魅力づくりについて。

人口減少問題は大学存続の上で大きな課題であります。そこで、一番近い上越教育大学と連携し、（準）附属高校化を目指してはどうか。

進路別学習支援制度を設けてはどうか。

市長杯「学術系成績コンテスト」を導入してはどうか。例えば英語力、英会話力、計算力、漢字力、クイズ力、科学研究力など学術系の成績で全国レベルの成績獲得者に表彰を行い、向学心を育てる取り組みはどうか。

(2) 糸魚川白嶺高校の魅力づくりについて。

市では県要望されたとおり、ジオパークを中心にジオ学・観光学・防災学の導入をより具体的に推進してはどうか。

地元産業と連携した新しいビジネス振興支援策はどうか。

市長杯「商工農林産業系成績コンテスト」を導入してはどうか。

地域の伝統文化に係る課外活動の支援はどうか。

(3) 海洋高校の魅力づくりについて。

海洋高校と東京海洋大学との連携推進支援はどうか。

市長杯「海洋水産業系成績コンテスト」を導入してはどうか。

2、身近な定住促進戦略について。

(1) 糸魚川市政労使会議（仮）の設置について。

雇用の維持と創出、ミスマッチ解消のために必要と思うがどうか。

(2) 若者チャレンジ応援事業（仮）の実施について。

若者が夢を実現するための「チャレンジ」に、市が助成金を支給し、地域で実践してもらう考えはどうか。

(3) 安心安全な生活環境整備について。

ドクターヘリの上越エリア配備の取り組みはどうか。

子どもや女性のために防犯カメラの設置支援はどうか。

防犯強化のため街灯設置の支援拡充はどうか。

過去に交通事故があった場所について、事故防止のためカーブミラーの設置やカラー塗装など、積極的に整備をしてはどうか。

(4) 自然環境の整備と魅力づくりについて。

海や川の水質環境はどうか。

海岸や河川、山林における動植物の安全対策はどうか。

久比岐自転車道をはじめとして地域内の農林道を活かし、サイクリストやランナーが楽しめる日本一のスポーツロードを目指した整備はどうか。

3、女性の定住促進策について。

当市の若い女性の定住率は低い状況であります。若い女性の意見や考えを積極的に取り入れることと、女性が住みやすい環境づくりを行うことが急務であります。そこで以下の点を伺います。

(1) 糸魚川市女性会議（仮）の設置について。

女性による女性のための意見や提案を行い、議論を深める組織機関を設置すべきと思いますがどうか。

(2) 「女性を日本一大切にすまち糸魚川」（仮）宣言について。

市長は若い女性の定住のために、ゆるぎない決意と情熱を持ってこの方針を示すべきと考えますがどうか。

+

(3) 「女性活躍推進法」の取り組みについて。

自治体の女性採用率や管理職の採用率の目標設置と公表が義務付けられております。市はどのように取り組まれるのか。

(4) いといがわ男女共同参画推進プラン（平成19年策定）について。

同プランの進捗状況と先ほどの「女性活躍推進法」との整合性はどうか。

(5) 定住促進を促す子育て支援について。

子どもインフルエンザ予防接種費用助成、ブックスタート、学童保育時間延長の検討状況はどうか。

4、北陸新幹線開業後の諸課題について。

(1) テレビ電波障害と騒音問題解消の進捗状況について。

沿線住民の意向を尊重した形で調整が行われているか。

問題解消のスケジュールはどうか。

(2) 北陸新幹線開業の経済効果の把握について。

市は投資対効果を調査していく必要があると思いますがどうか。

新規事業所の開設や起業・廃業など市内の変化はどうか。

(3) 路線バスと高速バスの効果や影響について。

市としてバス運行について、生活の足として、観光振興の手段として、どのような形にしていく考えか。

(4) 大系線とえちごトキめき鉄道（新駅含む）への効果や影響について。

市として在来線の運行については、生活の足として、また、観光振興の手段として、どのような形にしていく考えか。

(5) 当市の観光誘客効果と外国人観光客の動きについて。

観光客受入れメニューの現状はどうか。今後の展開はどうか。

(6) ジオパルの活用策について。

系魚川市の新名所として期待をしておりますが、今後の展開はどうか。

5、系魚川市と第三セクターとのかわりについて。

(1) 能生町観光物産センター（三セク）内の裁判について。

裁判で和解が成立し、7月1日より改善すると報道がありましたが、店舗配置等の改善状況はどうか。

筆頭株主である系魚川市として、裁判とその和解経過について、市民への説明と報告が必要だと思いますがどうか。

(2) 市長が社長を退任できた理由について。

合併後、歴代建設産業常任委員長と平成24年の系魚川市行政改革推進委員会より「市長が三セクの社長であることは好ましくない」と指摘され続けてきました。この度、社長の交代が実現し、運営の健全化が1つ進み大変喜んでおります。筆頭株主である系魚川市として、その経過について市民へ説明と報告があってしかるべきと思いますがどうか。

(3) 50%出資している三セクにおける系魚川市の役割について、市は施設運営の「見える化」を図り、第三者が見ても公平公正なテナント運営を行うように筆頭株主としての考えを

この際、表明しておいた方がよいと思いますがどうか。

以上で１回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

保坂議員のご質問にお答えいたします。

１番目の保坂議員からの３校に対する支援策につきましては、それぞれ学校の魅力づくりを高めるための手法の１つかと思っております。

少子化の中で学校の生き残りを意識して、生徒にとって魅力ある学校づくりを進めるため、主体である各高校が、今後、どのような学校づくりを進めていくのか。高校、県教育委員会と協議をしながら各校の取り組みに対して、さらに市が支援をできることを検討してまいりたいと思っております。

２番目の１点目につきましては、既存の雇用促進協議会をはじめハローワーク、経団連など、関係機関とのさらなる連携を強める中で対応してまいります。

２点目につきましては、若者の夢の内容により検討してまいりたいと考えております。

３点目の１つ目といたしましては、当市と妙高市、上越医師会、糸魚川医師会が５月に県知事宛に、上越地域へのドクターヘリ配備について要望いたしております。

２つ目につきましては、プライバシーの問題や設置要件などを精査する中で、検討してまいります。

３つ目につきましては、現在、地区が設置する街路灯について設置費用の一部を補助しており、拡充は考えておりません。

４つ目につきましては、警察、道路管理者、交通安全協会と協議の上、安全施設の整備を進めてまいります。

４点目の１つ目につきましては、毎年実施いたしております公共水域の水質調査結果からも、良好な環境を保っております。

２つ目につきましては、有害な動植物も一部地域で見られることから、そのような場所へ入られる方への注意喚起等を続けてまいります。

３つ目につきましては、グランフォンド糸魚川のダイナミックなコースや久比岐自転車道を基本として、環境整備に努めてまいりたいと考えております。

３番目の１点目につきましては、女性の意見や提案などが政策等に反映できるよう、各種審議会等への積極的な女性登用を推進してまいりますので、新たな組織の設置は予定いたしておりません。

２点目につきましては、若い女性の定住促進に努めてまいりますが、宣言までは考えておりません。

３点目につきましては、雇用主として法の趣旨と国の施策方針に沿って行動計画を策定してまいります。

４点目につきましては、男女共同参画プランの行動計画の実績を毎年検証しておりまして、平成２８年度に見直しを行い、女性活躍推進法との整合性を図ってまいります。

5 点目の子どもインフルエンザ接種費助成につきましては、これまでの対象者に中学 3 年生と高校 3 年生及び妊婦を加え、今年度から助成したいと考えております。

ブックスタートにつきましては、現在、子ども読書活動推進計画策定委員会で審議中であります。

学童保育時間延長につきましては、18 時以降の利用希望がある児童クラブから、来年度以降、実施について調整してまいります。

4 番目の 1 点目につきましては、電波障害の申し出により改修工事を進めているところであります。

また、騒音対策につきましては、鉄道・運輸機構が 2 次測定を実施いたしており、基準値を超える家屋については、対策を進めていく計画となっております。

2 点目の 1 つ目につきましては、乗降客数や入り込み客数、宿泊者数などの把握に努め、継続的に調査していく必要があると考えております。

2 つ目につきましては、ビジネスホテルの建設やピアタウン青海への出店などがありました。

3 点目につきましては、地域住民の交通確保を目的といたしておりますが、観光振興へもつなげていきたいと思っております。

4 点目につきましては、地域住民の利用促進と利便性の向上を図るとともに、大糸線や日本海ひすいラインで楽しめる景色、見どころを生かしてまいりたいと考えております。

5 点目の観光誘客効果につきましては、市内の主要施設の入り込み客数は伸びており、新幹線開業による効果が出ているものと思っております。今後もジオパークの資源を活用した受け入れメニューなどにより、体験交流及び体験教育旅行の誘客促進に努めてまいりたいと考えております。

外国人観光客につきましては、インバウンド推進委員会と協力をいたしまして、誘客活動を行っております。

6 点目につきましては、ゴールデンウィークまでの間、集中的にジオパルを使用したイベントを実施してまいりました。今後とも鉄道ジオラマ等を利用したイベントを実施し、情報発信、誘客宣伝に努めてまいります。

5 番目の 1 つ目につきましては、和解に基づき店舗配置等が行われるものと考えております。

2 つ目につきましては、和解の内容につきましては和解条項の中で、第三者に口外してはならないこととなっております。

2 点目につきましては、6 月市議会の一般質問の中で詳しく答弁させていただいたところであります。

3 点目につきましては、会社が定める方針と責任によって対応すべきものと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6 番（保坂 悟君）

1 番目からお願いいたします。

まず、1 番目の県立高校の魅力づくり側面支援であります。

まず確認なんですけども、0歳から18歳の一貫教育は、全国からも注目されております。議会議員の視察もふえているそうであります。地方創生の総合戦略のメニューにはっきりと、この魅力ある高校づくりを明記すべきと思うんですが、その点、先ほど市長の答弁からすれば可能かと思うんですが、その辺いかなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

0歳から18歳の一貫教育ということで、多くの自治体の方々から興味を持っていただき、視察をいただいております。今ほどのお話にありましたように、地方創生の総合戦略について、今、特色ある学校づくりということについて記述を考えている、検討している最中でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

そうしましたら検討のまた参考にしていただきたいと思います。少し提案の質問のようになりますが、聞いていただきたいと思います。

まず、糸魚川高校についてであります。今回、上越教育大学との連携強化という提案をさせていただきました。全国に国立大学の附属高校は17校しかありません。北陸、信越では、金沢大学に1つしかありません。また、県立高校で英語力や国際教養、科学、数学などに力を入れている学校はたくさんあるんですが、県立高校と国立教育大学が直接連携するというケースはないと思っております。

しかし、この人口減少時代に学生を地域で確保し、地域の学術拠点となる大学や高校を存続させるためには、これまでの常識や概念を壊して、新しい価値、創造をして共存共栄を図るべきと私は考えております。そこで県内外の教職員を目指す中学生が糸魚川高校に入学すれば、上越教育大学との太いパイプにより学生や院生、教職員からさまざまなアドバイスを受けられるようにし、大学側は糸魚川高校の中でモデル授業や研究授業を行い、アンケート調査を行うなど、教育研究資料を得られるようにして、この準附属高校化というものを、ほかではないんですけども、あえて糸魚川市は挑戦すべきかなと思っているんですが、こういう考え、また、こういう可能性について、市としてはどのように捉えておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

先ほどの市長答弁にありましたように、大変魅力づくりを高めるための手法の1つというふうに

考えております。各高校がどのようにこれについて考えていくのかということについても、今後、糸魚川高校に今回の件について情報提供し、一緒に話し合ってもらいたいというふうに思っております。

市内の中学校1年生は、上越教育大学に大学訪問をしておりますし、昨年、私、糸魚川高校に、学校に勤めようというお子さんたち、生徒たちに、学校ってこういうところだということを話をし、てまいりました。そういったところで生徒たちのキャリア意識を高めるということも、協力をさせていただいているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

想像以上に、前向きな答弁をいただけたかなというふうに思っております。ありがとうございます。

じゃあ続きまして、上越教育大学との連携を目指す理由には、やはりこの糸魚川市の施策、つまり0歳から18歳までの子ども一貫教育というものがあり、日本一の子どもづくりを目指しているというところに着目いたしました。糸魚川市単独で、この日本一の子どもづくりというのは、正直、難しい面もあるかと思います。

そこで糸魚川市と県立の糸魚川高校、上越教育大学、国立、つまり国・県・市の三位一体になった、この教育連携システムというものを構築することで、全国的にも県下的にも魅力のある、日本一の子どもづくりに取り組む教育システムというのできるんじゃないかと。そういう視点もございいますので、ぜひその三者で一度検討していただきたいんですが、その辺、さっき少し話がありましたけど、その三者でちょっとこういう検討という部分については、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

今ほどご提案をいただきましたので、まず、糸魚川高校に、こういった提案があったということをお伝えをしようと思っております。また、大学については、今度、大学との地域連携を考える会議というのが、毎年、行われておるんですが、それに毎年、出席させていただいておりますので、そういったところでも、こんな提案があったということについて、情報提供させていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

今回、こういう提案をさせていただいたのは、これまでのちょっと教育委員会の答弁の中で伺っていたのは、県立高校だから、なかなか手が出せないような答弁をずっといただいております。

ただ、きょうに関しては比較的、この魅力づくりについて前向きな答弁をいただいているものですから、私もちょっと気持ちよく質問させていただくとるんですけども、なぜこの高校の魅力づくりにこだわるかといいますのは、現実問題として、海洋高校に県外からの生徒に来ていただいているわけです。それにはちゃんと理由があります。逆に、高田高校や直江津中等教育学校に、毎年、糸魚川の子供たちも通っていることも事実であります。

その理由は何かと。また、ほかにも野球などのスポーツに実績のある子供が、市外、県外の私立高校に入学しております。その理由は何か。結局のところ、子供たちの目標や希望にかなった高校が地域にあるか、ないかという、これが極論だと思うんですね。であるならば、やっぱり魅力のある高校というものが地域にあれば、逆にそれは地方創生にもつながるし、地域活性化にもつながるし、また、子供たちとのかかわりを持つことによって本当の意味でのふるさと、自分の培ってきた場所というふうになると思うんですね。

そういう意味で、ちょっととっぴな提案かもしれませんが、これぐらいのことを取り組んでいかないと、本当の意味での地方創生であったり、高校の魅力づくりができないというふうに思いまして、今回、提案させていただきました。どういう反応が返ってくるかわかりませんが、ぜひその三者協議をやっていただきたいと思います。

続きまして、今度は の進路別学習支援制度であります。市は情熱を持って高校と、高校生が求める支援を積極的に側面支援していただきたいと。具体的には、もう既に高校で行われているんでしょうけども、模擬試験や受験勉強のサポート支援、また、高校側が希望する学校の周辺の環境整備の支援など、県立とはいわず魅力ある高校づくりの形として、こういった学習支援とか環境整備にも力を入れていただきたいんですが、そういった考え方はいかなるものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

進路別の学習支援ということですが、糸魚川高校でも現在、学習支援につきまして進路指導をとっても一生懸命にやっております。そこにおいて、市としてどんなふうなお手伝いができるのか、支援ができるのかということについて、糸魚川高校とまた相談をさせていただきたいというふうに思っております。教育委員会としては、できる支援は行いたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

ちょっと質問で、各3つの学校に全部市長杯、○○コンテストというふうに書かせていただいたんですが、一括して質問します。

この項目は3つの高校に共通しているんですが、高校生が個人や団体で取り組んでいるもので、糸魚川市長から見て、これ特に評価できるな、糸魚川をアピールしてくれてるなという生徒に対して、きちんと表彰状なり商品券などを贈呈して、評価をしてあげていただきたいと。できれば市役

所か各学校に一角スペースを設けていただいて、頑張ったあかしとしてネームプレートで記録も残してあげてほしいと思うんですね。

それはなぜかといいますと、将来、大人になって家族を持ったときとか、自分の子供を連れて、またそのプレートを見ていただくという。そういうふるさとの教育というか、そういうところの思いを強くするために、こういった取り組みをぜひやって、評価をしていただきたいんですが、県立とはいわず糸魚川市として、市内の県立高校で頑張っている子、どんな分野でもいいから評価していくという取り組みをぜひお願いしたいんですが、その辺いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

市としてのコンテストということについては、教育委員会としては今のところは計画にはございませんが、各学校では漢字検定や英語検定、数学検定ですとか、そういった検定に挑戦をしておりますし、海洋高校ではダイビングの資格ですとか、それから白嶺高校でもワープロ検定ですとかというような、いろんな公の資格、それからまたいろんなコンテストにも挑戦をしておるところでありますので、そういったところで優秀な成績をとっている生徒さんたちにとっては、日本国内で認められる級というのが出てくるわけでありまして、内申書にも書けるわけでありまして、そういったところで自身を深めて、高めていってもらえるものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、高校の中では県レベルだとか、全国レベルというのがあるわけでありまして、それに匹敵するようなものでないかという評価しても喜んでもらえないだろうと思うわけでございますので、その辺をどういうものでできるのか、これは3校でまたあろうかと思うわけでありまして、その辺を考えた中で、もしそういうものができるとしたら、やはり市としてみんなで評価をしてあげて、記念になるような形にもっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

ありがとうございます。

要は、なぜそこまでこだわるかというのは、やっぱり糸魚川市は0歳から18歳というふうにならなっておりますから、やっぱり小・中学校で頑張ってる子、糸魚川市の高校に通っている子供たちについても、しっかり糸魚川市はバックアップしてるんだ、見守っているんだというアピールにもなると思いますので、ぜひ前向きに捉えていっていただきたいと、これは要望とさせていただきます。

す。よろしくお願いいたします。

次に、今度は糸魚川白嶺高校の魅力づくりであります。

市は新潟県に要望されたとおり、ジオパークを中心に魅力づくりをすることを表明したというふうに伺いました。私はこの行動自体は高く評価しております。

そこで過去の一般質問で提案したとおり、白嶺高校においてはジオ学、観光学、防災学の導入を、より具体的に推進すべきというふうに思っておりまして、できましたらこの防災学においては防災士の養成コースの設置とか、また、防災学でいうと気象の研究、災害の研究、防災、防備等の研究。あとは将来、職業観になります。消防士、警察官、公務員、建設業等の関連業種との連携など、こういったところを少しちょっと研究していただきたいんですが、その辺の考え方、防災学の学科についての考え方はいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

県では、魅力ある高校づくりプロジェクトということを展開しておりまして、オンリーワンステップアップ事業の中で、オンリーワンスクール・ステップアップ事業というものを実施をしております。海洋高校はそれに組み込んでおられ、成果を上げているところであります。こういった県の事業等も参考にして、白嶺高校が魅力ある取り組みを実施するということは、とてもいいことかなというふうに考えております。

今、ご提案のありました防災についての取り組みについて、1つの大きな特色かと思えます。議員の提案につきましても、白嶺高校の校長に情報提供していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

校長先生というよりも、多分、今度は県とかに申し入れになるかと思うんですね。校長先生が、多分、一存で学科の創設はできないと思いますので、県との協議をお願いします。

次に、この観光学、これも同様ですけども、観光学についてであります。建設産業常任委員会で視察をいたしました、和歌山県の熊野ツーリズムビューローという公社があります。糸魚川市もやはりジオパーク、また観光という、また外国人誘客等々いろいろ考えた場合に、そういった糸魚川市観光ビューローみたいなものをつくるという前提で、またそこで働くスタッフを、できればこの白嶺高校で育成していくっていう、そういう大きなビジョンをぜひ考えていただきたいなど。

具体的な内容としては、やっぱり英語力、国際感覚の養成、プレゼン力、あとアクティビティーのインストラクター、例えばスキーだとか、ラフティングだとか、ダイビングだとか、そういったもののインストラクターの力。あとはやっぱり旅行取扱主任者資格等の資格も持って、あと地域の伝統文化の継承、またそういったものを観光化に結びつけるような取り組みというものをやっていただきたいんです。

これを高校にやってくださいと言っても到底無理な話で、やっぱり糸魚川市とプロジェクトとして、そういう観光に力を入れたまちづくりをしていく上で、白嶺高校にもこの部分を担っていただきたいなど。それを県にも協力をいただき、地方創生につなげてそういう取り組みをしてもらいたい。こういう考えなんですけども、ぜひそういった、今の段階ですと相談というか、協議をする段階しかできないかもしれませんが、ぜひその行動をとっていただきたいんですが、その辺いかなうものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

この白嶺高校の魅力づくりにつきましては、先ほどの古畑議員の答弁の中で、具体的に市長のほうから高校のほうに提言をいたしまして、高校のほうでも非常に前向きな検討をするという力強いお言葉もいただきました。まずは学校のほうでどういったコースが考えられるかというものを組み立てをしていただきまして、そこに当市としてどのような支援ができるかというものを具体的に定めて、また県教委のほうに支援を要請していきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

ぜひよろしくお願いいたします。

次に、番を飛ばしまして 番ですかね、地域の伝統文化に係る課外活動の支援ということであり、先ほどの観光学科に関連するんですけども、やっぱりこの地域の伝統芸能を継承するためには、各いろんな団体が存続をしようということで取り組まれてはおるんですけども、そろそろ市全体でこういった継承を、仕組みというかシステムをつくって、継承していくような時期にきてるんじゃないかというふうに考えております。

前例とすれば、佐渡市に県立羽茂高校というのがありまして、全国でも珍しい民謡「佐渡おけさ」を中心とした郷土芸能部というものがございます。一時は衰退したそうなんですが、現在では校内で最も人気のある部活となっていると。

糸魚川には天津神社、白山神社、山寺のおててこ舞など神楽みたいなもの、芸能がありますし、あと太鼓のグループもあります。あと地域には盆踊りという文化もしっかり根づいております。こういった芸能を存続させるもし部活動ができるのであれば、積極的に市も応援していただきたいですし、特に白嶺高校に関しては、この市民会館が近くにあるということで、音楽、ダンス、演劇も含めて、こういう文化、芸能にちょっと力を入れる支援をしていただければ、また学校の魅力づくりになるかと思うんですが、その辺の考え、また相談をしていただきたいんですが、いかなうものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

現在、白嶺高校で、地域の伝統文化に係る地域講師を招いての課外活動ということは実施をしておりません。今回、ご提案がありましたので、それについてもまた情報提供していきたいと思っております。今まで高校との情報提供の機会がなかなかなかったんですが、今年度から情報提供をする機会を設けましたので、そういったところで確実にお伝えをしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

提案ばかりで申しわけございません。

続きまして、3番目、海洋高校で魅力づくりであります。

海洋高校の出身の東京海洋大学の卒業生をふやすことが、今、推薦枠の確保につながるという話を伺いました。毎年、少しずつでも合格者をふやせるように海洋高校に頑張っていただきたいんですが、もし必要であれば、そういったところに対しても学習支援とか、協力も糸魚川市で行っていただきたいんですが、ちょっと戦略的に東京海洋大学の枠を太くしていきたいというふうに私は考えるんですが、その辺の協力、連携の考えはいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えいたします。

現在、海洋大学との連携ということにつきましては、海洋高校では実施をしておりません。ですが進路の1つとして、生徒にはこういう学校があるということについての情報提供をし、進路指導は行っているというふうに伺っております。ですから現在のところ海洋大学への進学ということは、実績としてはないというのが現実でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

せっかく海洋の専門の高校であります。この学校に入ればそういう枠があって、進学もできるという道をやっぱり開いていくべきだと思うんですね。だからそういうことで、もし高校と糸魚川市と連携してそういう人材も輩出していけるように、少しちょっと検討いただければというふうに思います。要望とさせていただきます。

続きまして、糸魚川市が支援しているシーフードカンパニー能水商店についてであります。これはもうまさしく、地方創生の私はモデルケースというふうに思っております。学校や生徒の迷惑

+

にならない範囲で行ってほしいんですけども、行政主導で国や県、市町村議会、または商工会議所、各協同組合等、あと実業高校等に対しても、海洋高校のこの取り組みというものをアピールしていただきたいですし、場合によっては視察として見ていただきたいというふうに思っているんですが、高校にそれをお願いすると、非常に負担をかけてしまうものですから、できれば糸魚川市でそういうコースといいますか、視察コースみたいなものを設定して、高校に迷惑をかけないような形でそういう取り組みをして、海洋高校を全国にアピールしていただきたいんですが、そういった取り組みはいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

シーフードカンパニー能水商店につきましては、この４月に食品加工場の火入れ式をしていただいて、その後、本格的にクラブ活動として展開をしていただいております。８月につきましては最後の一滴が、月産２，０００本というふうな数量で販売が進められてきているという状況でございます。そのような活動につきまして、先般、市長、それから教育委員会、それから中村県議にも中間報告として、今までの活動の報告をさせていただきまして、それらにつきましても報道していただいているところでありますし、また、テレビでも取り上げていただいているところであります。

今、ご提案のようにコースを設けて、もう少し幅広くＰＲするべきでないかというところにつきましては、また海洋高校のＯＢ会の皆さんとも話をし、ぜひそのように全国発信していきたいというふうに考えております。

それから海洋高校につきましては、最後の一滴ばかりでなくて、真昆布も養殖をしております。真昆布につきましては、もう既に北海道大学の水産学科との連携も取り組んでおりますので、海洋高校は大学とも連携して事業展開しているところだけ、少し触れさせていただきました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○６番（保坂 悟君）

大変ありがとうございます。

夢みたいな話になるかもしれませんが、私の中ではやはり建設産業常任委員会で視察に行った和歌山県の相可高校の高校生レストランというのが、どうしても１つの目標になっておりまして、ぜひこの海洋高校が頑張っていて、また糸魚川市も協力していただいて、マリンドリーム能生か、もしくは糸魚川の新幹線の駅とか、場合によっては高速道路のサービスエリアとかに、できれば出店できるような形態にならないかなというふうに夢を描いております。ぜひやっぱり実績といいますか、結果を残していかないと、なかなかそこまでいかないのは私もわかっておるんですが、ぜひ地域を挙げて、この海洋高校の能水商店、また、ＯＢ会の人たちの心意気というのも非常に感じておりますので、ぜひ糸魚川市も全面的に協力をお願いしたい。これは要望にしておきますので、よろしくお願いいたします。

次に、２番のほうに移ります。

身近な定住促進戦略であります。

今回、糸魚川市政労使会議（仮）ということで提案させていただきました。

これはちょっと規模は大きいんですけども、リーマン・ショック後に経済立て直して、神奈川県が取り組んだ事業であります。やはり最大のこの会議の目的は、地域の賃金を上げることが最大の目的であります。さらに言えば、若者の賃金を上げるにはどのような手法があるか。また、県や国に対して、どのような施策を要望するかなどを検討する会議にしていきたいと思いますと思っています。

ほかにも離職、転職者を対象にした職業訓練のメニューのあり方、要は現状の課題に合った職業訓練のメニューになっているのかどうか。また、長時間労働の改善も含めて若者世代の安定的昇給、または子育て世代への重点的賃金配分といったものも会議をして、この糸魚川市の雇用形態、賃金形態というものを真剣に考えて、人材をこの地域にとどめ置く、またはほかから連れてくる、そういう会議を起こしていただきたいんですが、これまでやってきたことがいけないというのではなくて、さらに輪をかけて具体的に、この市にはこういうことが必要なんだというものを、お互いに共通認識を持った取り組みをできるような会議を創設していただきたいんですが、その辺いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

政労使の会議につきましては、国レベルでは平成25年の6月に設立をされておりまして、経済産業省、財務大臣、それから厚生労働大臣、それから経済界の代表、労働界の代表ということで設立をされて、経済の好循環の実現に向けてということの取り組みをしていただいとるわけでありま

+

す。
先般、8月30日のNHKの「日曜討論」の中でも、地方版の政労使の会議が話題になっているというふうにお聞きしております。我々は今回、地方創生総合戦略の中で産官学金労言、いろんな団体との意見交換をさせてもらってきております。その延長線で、今、議員のご提案があったような話も関係団体と意見交換しながら、高めていく必要があるんでないかなというふうに考えておりますが、ご提案の政労使会議というものにつきましては、今のところ既存団体との連携を進めていくということで、設置の考えは今のところはございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

そういう意味では、会議設置にあえてこだわりませんわ。その機能といいますか、今、言った具体的な糸魚川市の地域に根差した雇用のあり方、賃金のあり方、または若者から見て魅力のあるそういう形態というものを目指すのであれば、それは今の既存の組織機関でやっていただきたいんですが、ただ、そのやったことをまた見えるように、ぜひしていただきたいと思います。

次に、若者チャレンジ応援事業（仮）の実施であります。この若者チャレンジというと、普通、

大体ビジネス、事業を連想するかと思うんですが、私、今回の場合は、ここではビジネスだけではなく芸術、学術、観光、芸能、音楽、スポーツ、映像、建築、郷土料理、創作料理、こういったものも含めて市内でチャレンジしてみたいんだと、ここには記しませんでしたが、空き家を使って、ここで骨を埋める覚悟でやってみたいんだとか、そういう方がおられたら、ぜひ応援していくシステムをつくっていただきたい、また、PRもしていただくシステムをつくっていただきたい。そういう思いで今回提案しているんですが、いま一度、この辺の考え方は、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

今回の戦略プランの中でも、若者の力というのが大事になってくるというふうに認識しております。今回の若者の関係ということで、当課でも今年度からちょっと動き出しとるんですけども、若者ワークショップということで、通称「わかちか」と言うんですけども、評論家や何かでやるんじゃないくて行動できる若者を集めて、率直な意見交換から初めて、自分がやりたいと思えるまちづくりをやっていただくということを目的とした会議等を、今後、広げていきたいなということで動き出してはおります。

その中で、例えば何かものづくりをしたいだとか、そういうものについては今のところパワーアップまちづくり事業というのがあるんですけども、これは例えば今、10名以上の団体でないといけませんし、それから補助率が2分の1で、ハードとソフトがあるんですけども、そういう支援事業があるんですけども、それに該当するか、しないかということもありますので、その辺については、今後、そういう助成事業について、考えていきたいなというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

私も具体的に、こういう方がいて、こうだというものはないんですけども、ただ、そういう受け皿というか、そういうものがあるということをやはり全国にアピールして、糸魚川市ならちょっとおもしろいことができるぞと、そういう雰囲気づくりがまず大事かと思いますので、ぜひそういったアピールをお願いいたします。

次、（3）番の安心安全な生活環境にいきます。

ドクターヘリの要望はされてることは重々知っておるんですが、その進捗状況といいますか、感触について、もしおわかりであれば、ぜひお伺いしたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

私どもが要望を出した後に、新聞報道もありましたように8月6日に、基地病院選定の委員会が

県の主催で開催をされております。その中では結論が出ず、9月ごろに、再度、開きたいというような情報でなっております。

第1回の会議の中では、上・中越をカバーするということの中で、上・中越地域にございます救命救急センター、3病院があるんですけども、そこを基地病院の候補として、第2回の会議の中で選定をしたいというような情報を聞いております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

中越とか上越のほうへいくと、何か長岡のほうが有力だみたいな、少しちょっとそういううわさといいますが、そんな流れも聞いておりまして、そういう危機感をおぼえておりまして、さらに積極的に、ちょっと要望活動をお願いしたいと思います。要望にさせていただきますね。

次に、子供や女性のために防犯カメラ設置のことです。

過去に5回ほどもう取り上げてきた防犯カメラの件であります。毎日のように次から次へと、女性や子供が犠牲になる悲惨な事件が報道され続けております。また、いじめや家庭内問題などで自殺する事件とか、放火、ひったくりの事件もよく耳にします。これらの犯罪防止の観点と、犯罪抑止の観点と、あと犯人特定の手段として、やっぱり防犯カメラの力は、ますます必要になってきているというふうに認識しております。事件に巻き込まれないように家庭や地域、学校で指導することは当然としても、糸魚川市においてこの防犯カメラの設置数の確認とか、要所、要所に、行政主導で設置をすべきというふうに考えております。

いつもこの質問をさせていただくと、個人情報の観点から積極的な設置は難しいという答弁が返ってくるんですけども、個人情報と犯罪抑止や犯罪防止というものをてんびんにかけるのではなくて、糸魚川市の安全対策として、やっぱり住みやすいまちづくりという観点で、この防犯カメラの設置については、ちょっと積極的に推進していただきたいんですが、その辺の考え、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

防犯カメラにつきましては保坂議員おっしゃるとおり、犯罪抑止という面では非常に役に立つものかなというふうに思っております。

しかしながら、前からご答弁させていただいているように、やはり防犯カメラについてはプライバシーの侵害という面もございます。したがって、公共施設そのものの防犯という面での目的において設置する場合については、当市においては駅と自由通路と待合室等に設置はしてございますが、そういう観点では今後も防犯カメラの設置については、検討させていただきたいというふうに思いますが、防犯全般という観点に立っての設置については、現在のところ慎重に考えていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

いつもなかなか厳しい答弁なんですけども、ぜひやっぱり安全対策という観点で、検討をお願いしたいと思います。

あと防犯強化のための街灯設置の支援拡充であります。今現在も各地域に、このLED街灯には設置の補助をされてるのは重々わかつとるんですが、やはり防犯という意味では少しでも明るく、また、数もふやしていただきたいという地域の要望もございますし、多少なりともちょっと補助率の拡充を考えていただきたいんですが、再度、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

○建設課長（串橋秀樹君）

現在、街路灯設置を要望する行政区につきましては、防犯上必要な箇所から優先して設置していただいておりますので、特に新たな要望もございませんので、支援の拡充というのは考えておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

すみません。聞き漏らしたんですけど、要望がないっていうのはどういうことですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

○建設課長（串橋秀樹君）

区の方で設置を要望するとき、防犯上必要な箇所を優先して設置をしていただいているということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

設置の要望、ちょっと意味がわからないんですけど、設置の補助率なりの拡充をしていただきたいんですが、それはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

○建設課長（串橋秀樹君）

現在の制度でも、特にこうしてもらいたいとか、ああしてもらいたいとかという要望が出てきておりませんので、特に要綱を変えるということは考えておりません。ということは、金額も上げるということは考えていないということであります。

○議長（倉又 稔君）

暫時休憩します。

午後４時１２分 休憩

午後４時１２分 開議

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を再開します。

○建設課長（串橋秀樹君）

大変失礼しました。

街路灯設置補助要綱の中には蛍光灯とＬＥＤの２種類がありまして、設置費の３分の１ずつ補助しておりまして、蛍光灯の場合は上限１万円、ＬＥＤの場合は上限１万５，０００円という制度で、各行政区から申請があった場合は補助金を交付しとるわけですが、その補助金について安いから上げてくれとかという要望が出ておりませんので、現行のままでいいのかなというふうに今現在思っておりますので、要綱の見直しは今考えておりませんということです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○６番（保坂 悟君）

ＬＥＤ、蛍光灯をつけるとき１つ幾らしますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

○建設課長（串橋秀樹君）

蛍光灯の場合は３万円弱で、ＬＥＤの場合は３万５，０００円から４万円です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○６番（保坂 悟君）

高いんですよ。負担が大きいんですよ。それは言わないというよりも、多分、言わせない雰囲気があるんじゃないかなと私は思います。もし要望がないと言うんなら各地区に聞いていただきたいんですが、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

○建設課長（串橋秀樹君）

以後、要望があった申請者、区ですけども、聞いてみたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

要望者じゃなくて各地区に聞いてみてください。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

○建設課長（串橋秀樹君）

要望者といいますか設置者でありまして、行政区が設置するということになっておりますので、個人で申請するものではございませんので、要望者ということで行政区だということでもあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤産業部長。〔産業部長 斉藤隆一君登壇〕

○産業部長（斉藤隆一君）

今現在の街路灯等の設置に対する支援拡充についてのご質問であります。

現行、今、建設課長が申し上げたような形で運用しております。補助額を上げる、上げないというのは、これまでの制度の中で、一定の住民自治の中での負担をいただく中で、市も支援してこうというスタンスで、これまで3分の1の今の制度をつくってきたというふうに思っております。

確かに今、町場も含めてでありますけども、中山間地域においては過疎、高齢化という部分もあります。今すぐということではありませんけれども、これらを取り巻く環境の変化もありますので、いただいたご意見については、また部内で真剣に協議していきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

ぜひ防犯という観点、または地域には暗いところが多いもんですから、やっぱり少しでもよりよく地域の方も積極的に設置ができるように、そういう配慮をぜひお願いいたします。

次に、過去に交通事故があった箇所について事故防止のためのカーブミラー設置、カラー塗装などの積極的整備であります。これも以前から何度も質問で取り上げて、同じ答弁をいただいております。やっぱり家の周りとか、自分が通勤通学してるところで事故等があると、そこへの危険度というか、危機感みたいなものもふえてきます。であるならばやはりせめて、表現はよくないですけども、事故のあった箇所についてはやっぱり積極的にミラーをつけるとか、注意喚起を促す道路塗装をすとかというのを積極的にやっていただきたいんですが、その辺の考え、もう一度お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

○建設課長（串橋秀樹君）

まず、カーブミラーの設置につきましては、各地区からの要望とか聞き取り、道路パトロールの中で地域の要望になるべく応えられるように、交通事故の発生しやすい危険な箇所を中心に、今後とも計画的に設置していきたいというふうに考えております。

それから歩道に相当する路肩がほとんどない狭い路肩の場合、歩行者や自転車の安全対策についてはどうかということで、ドライバーの視覚に歩行者の通行帯を認識させるために、接触事故も防ぐということでグリーンベルトと言いますか、緑のラインを今年度、試験的に、京ヶ峰2丁目の西南、寺町境のところで一部試験的に、今、引いてみたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

結論から言いますと、事故があった箇所については少なくとも優先度を高めてほしいと、そういうふうに受けとめていただきたいと思います。よろしくお願いします。

次に、今度は自然環境の整備であります。系魚川市の環境データをいただきました。これをばらばらと見ると、ところどころに網かけの部分がございまして、そこが多分、基準値を超えている箇所なんだと思うんですが、自然豊かな系魚川市をアピールしていく上で、そういった網かけの部分を、ぜひ解消してほしいと思うんですけども、今、これいただいたのは、網かけの部分については解消されているのか、また、これはもう系魚川は自然豊かなところできれいなところなんだよと、もう全面的にアピールできる状況なのか、その辺ちょっと、大ざっぱですけども、確認のためお願いしたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

系魚川市の環境の中で網かけの部分については、議員おっしゃるとおり基準値を超えているという部分を表示してるものでございます。

それで例えば河川の中で、大腸菌群が超えているという部分がございます。これについては特に水量の問題もありまして、今もある程度、やっぱり超えているという傾向にあることは確かでございます。ただし、ほかのBODとかそういうものについては基準値を下回っているということで、一部基準値は、今言った大腸菌群みたいな基準値は超えているところもあるんですけども、おおむね系魚川市の水域の状況は、良好だというふうに認識しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○ 6 番（保坂 悟君）

確認なんですけども、ほかにも臭気だとか騒音とかもあるんですけども、これは今ちょっとした手心で改善できる数値なのか、それとも根本的な問題で、なかなかこれはもう解決できないというものなのか、その辺ちょっと確認のため教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○ 環境生活課長（五十嵐久英君）

その場合、場合というか、ものによってはちょっと違う。環境基準をちょっと超えてるものもありますし、先ほどの大腸菌群ですと数値的には大きいものもございます。また、季節によっての変動もございます。ですから同じ場所によっても、毎年、基準値を微妙に上回ったり、下回ったりということで、ずっとこれが恒久的にこれからも解消できるかということ、その辺はちょっと明言できないという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○ 6 番（保坂 悟君）

私、なぜこんなことをあえて聞いたかといいますのは、自然豊かな市町村って全国にやっぱりたくさんありまして、その中でも際立たせて糸魚川は環境にいいんだと。例えば、ぜんそくをお持ちの方がここに来てもらえると、環境はいいですよというアピールするために、こういうのにちょっとでも網かけみたいなものがあるとマイナスな要素があるんで、もし改善できるのであればぜひ改善していただいて、糸魚川の環境が素晴らしいということを全面的にアピールして、この定住促進を図っていただきたい。そういう思いでこの資料を取り上げたので、ぜひ改善に向けて努力いただきたいと思います。

ちょっともう時間がなくて、たくさん質問項目を挙げてしまったんですが、いろんな提案ばかりでありましたが、またぜひそれぞれについてご検討いただきますようお願いして、私の一般質問を終わります。

ありがとうございました。

○ 議長（倉又 稔君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

本日はこれにてとどめ延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

午後 4 時 22 分 延会